

私立 白梅学園大学・白梅学園短期大学

携帯サイトを活用したキャリア・生活支援システムの構築と展開

取組期間	2009(平成21)年度～2011(平成23)年度
区分	学生支援推進プログラム
所在地	〒187-8570 東京都小平市小川町1丁目830番地
設置者	学校法人 白梅学園

取組内容とその成果

プログラムの目的及び内容

本学は教育・福祉人材養成を行っている。実習期間中を含め授業スケジュールが過密化しており、特に学生の就職活動時間が制約されるという問題は深刻である。本学ではその課題を改善しつつ、大学として、いま社会が求める職業に対する使命感と学士課程を修了した職業人に相応しい、知識・技術、社会人力を備えた人材育成を達成することが求められている。

本プログラムの目的は、携帯サイトを活用したキャリア支援システムを構築する事によって、学業と就職活動の両立を果たす環境を整え、そして取組の成果を基盤に全学的な学生支援体制へ展開していくことにある。

到達目標

学生が充実した学生生活の中で学業と就職活動を両立させるキャリア支援を行うことにより、就職率100%を目指す。

プログラムの実施内容

本プログラムにおける目標達成のための具体的な取組内容は次の通りである。

- ①モバイルサイト、メール配信システムの構築、さらに学生情報データベースの改良を行い、学生に対して求人情報をはじめとする情報等を迅速且つ積極的に提供することで、学生の効率的な就職活動を支援する。また、学生情報の把握と相互コミュニケーションツールとしても役立つ。
- ②自己理解、社会人力を高めるガイダンス並びに採用試験合格支援のための講座を実施し、学生のキャリア意識と内定率の向上へと繋げる。
- ③キャリアカウンセリング・アドバイスを実施し、

対話重視の進路指導を展開することで就職率の向上と就職未内定者支援を行う。

取組の実施体制については、モバイルサイト、メール配信システム構築の運用企画提案、求人受付業務、その後の情報更新とメーリングリストを利用したキャリア支援等情報発信を、進路指導課が中心になって行う。進路ガイダンスは進路指導課が企画・運営する。また、把握した学生情報（卒業生情報を含む）を基に進路指導課、担当教員、キャリアカウンセラー・アドバイザーが進路指導・相談・助言をする。これらの取組から達成された進路状況を基に、学生委員会を通じて各学科から意見・情報を集約し、本取組を展開していく。

プログラムの成果

1. 当該プログラムの周知方法等

事業初年度には携帯サイトを活用したキャリア・学生支援の効果を高め、本事業の認知度を上げる取組として、携帯サイトの本格的な運用時にメインユーザーとなる大学1～3年生、短大1年生の合計595名に対し、学生支援推進プログラムの採択と本事業の目的・内容説明、メール配信システムにおける個人情報の取り扱いについての説明を行った。教員が本事業の目的・内容紹介などを実施したことによって、本事業の認知度が全学的に高まった。また、ゼミナールや授業時にアンケートを実施したため、498名（回収率84%）もの回答が得られ、携帯サイト及びメール配信システムの導入における環境整備に大いに役立った。事業2年目以降は、入学者対象オリエンテーション、進路ガイダンスにおける説明のほか、本学ホームページ、学内掲示版、学生ハンドブック（学生便覧）において、本プログラムの内容について紹介した。

2. 当該プログラムの成果

①自己評価は、どのような観点で行ったか。

本プログラムの評価指標について次の観点を対象とし、最終年度における到達目標を以下のように設定した。

(1) 学生の進路指導課情報サイトの閲覧状況(PC版、携帯版)と満足度

閲覧状況80%、満足度5点満点で4点以上。

(2) 学生のメール配信サービスの受信率と満足度
受信率80%、満足度5点満点で4点以上。

(3) 学生の進路ガイダンスの内容に関する満足度
5点満点で4点以上。

(4) 学生のキャリアカウンセリングと面接指導に対する満足度

5点満点で4点以上。

(5) 学生の進路指導に対する満足度の向上
「満足・とても満足」と回答した人が前回アンケート結果の2倍。

(6) 就職内定率
卒業時(3月15日)に100%。

(7) 求人件数
前年度件数の10%増。

②到達目標に達したか。

本プログラムの到達目標に対する達成度を客観的な視点で判定するため、学生アンケート並びに就職状況調査を実施し、以下の結果を得た。

(1)～(4)の項目は進路指導課が実施した内定者アンケート結果(大学・短期大学生132名が回答)。満足度とは、進路活動の際に役立ったのかを5段階で評価してもらうもの。

(5)の項目は学生委員会が実施した「2011(平成23)年度 意義ある学生生活をつくるためのアンケート」結果より(大学・短期大学生420名が回答、前回は2008(平成20)年度に実施し、大学・短期大学生710名の回答)。

(6)の項目は進路指導課集計(就職内定率は希望者に対する数値)。

(7)の項目は進路指導課集計(本学独自のものでインターネット経由・公務関係の求人を除く)。

(1) 学生の進路指導課情報サイトの閲覧状況(PC版、携帯版)と満足度

閲覧状況「未達成」(PC版55%、携帯版50%)。

満足度「達成」(PC版4.1点、携帯版4.2点)。

ただし、閲覧状況(PC版)は事業開始年度の条件調査アンケート時の6%から55%へと上昇している。

(2) 学生のメール配信サービスの受信率と満足度

受信率「達成」(85%)、満足度「達成」(4.3点)。

(3) 学生の進路ガイダンスの内容に関する満足度
「達成」(4.2点)

(4) 学生のキャリアカウンセリングと面接指導に対する満足度

「達成」(4.8点)

(5) 学生の進路指導に対する満足度の向上
「未達成」(41%)

前は23%で1.8倍となり目標の2倍には惜しくも達しなかったが、本プログラムの実施によって本学進路指導の信頼度が増した。

(6) 就職内定率
「未達成」(大学96%、短期大学98%)

本プログラム実施前(2008(平成20)年度)の就職率は大学96%、短期大学87%で、短期大学のキャリア支援に高い効果が認められる。また、大学の就職率維持に大いに役立った。

(7) 求人件数
「未達成」(前年比94%)

ただし、本学卒業生の多くが就職志望分野としている教育・保育関係求人は、本プログラム実施期間中(2009(平成21)年度～2011(平成23)年度)、右肩上がりに上昇した。2009(平成21)年度770件、2010(平成22)年869件、2011(平成23)年度944件。

③具体的な成果は何か。

本プログラムより得られた具体的な成果は以下のとおりである。

(1) 学生が携帯サイトを活用し、適切な時期に就職活動に参加できた。3年前の事業開始直後は本学就職情報サイトの閲覧率(PC版)がわずか6%、今では学生の2人に1人(PC版で55%、

携帯版で50%)が利用するようになった。学生が求人情報検索機能等を活用することによって、学業と就職活動の両立を図り、効率的に就職活動を行える環境になっている。本プログラム開始前年度(2008(平成20)年度)の卒業時就職率は大学96%、短期大学87%であったのに対し、プログラム最終年度の2011(平成23)年度には大学で96%、短期大学で98%の就職率となった。特に短期大学のキャリア支援に効果が認められ、大学の就職率維持にも大いに役立った。

(2) メール配信システムはキャリア支援のみならず、学生の更生保護や安全確保に役立てることができた。キャリア情報の迅速な提供のためのメール配

信システム利用が、学生の適切な時期の就職活動へと繋がった。特に就職未内定者に対して積極的にメール連絡を入れ、学生が即時就職活動を開始するといった対策が就職率向上に結びついたと言える。本事業実施2年目には東日本大震災が発生した。その際にも学生の安否確認や、学校からの各種連絡等に本メールシステムは利用された。また、学生の学外実習活動が多い本学ではインフルエンザ対応等に苦慮したが、本システムの利用は極めて有効であった。

(3) 無駄のないガイダンス実施が学生の就職率の維持・向上に繋がった。授業スケジュールの関係で、限られた時期に厳選した内容のガイダンスを展開。自己分析をはじめとするキャリアプランの確立を目的とした講座から、履歴書・エントリーシート の書き方、面接対策、志望分野別の模擬試験及び対策講座といった、実践的なガイダンスまで幅広く行うことで、学生の内定・合格力アップを目指すことができた。

(4) キャリアカウンセラー・アドバイザーは就職率だけでなく、学生のモチベーションを維持する機能を果たした。学生が就職活動の悩みについて話し、キャリアアドバイスを受けて採用試験に臨む体制が整い、学生自らが進んで進路活動へ挑むことができた。内定者アンケートでは6割の学生がカウンセリング・アドバイスを経験し、前向きに就職試験に挑戦し内定を得ている。

(5) 学生に信頼感を与える進路指導をPRする機会を得られた。学生委員会では3年毎に「意義ある学生生活をつくるためのアンケート」を学生に対して実施。その中で進路指導の満足度が3年前の23%から41%へ上昇したことが大きな成果である。学生との信頼関係構築が的確で迅速な進路支援を可能にし、充実した進路指導へと繋がっている。

以上のことから、本プログラムの実施によって本学では学業と就職活動の両立を果たすキャリア支援が行われ、さらに学生一人ひとりの希望や適性に合った進路実現を支援することで、就職率が維持・向上できたと考える。

今後の計画

1. 当該プログラムの成果をどのように活用しているか。

本プログラムの成果は今後の就職率の維持・向上

だけでなく、学生生活支援全般に役立てることができる。モバイルサイト、メール配信システムに関しては就職支援に限らず、学生に纏わる全ての情報提供媒体としての機能を持たせることができる。

また、事業の最終年度には進路・学生指導の体制強化のため教職員向けログイン機能を追加し、就職・学生情報の共有化、学生指導の充実化を目指すなど、構築したシステムを全学的に活用できる基盤形成がなされた。

キャリアカウンセリングについては、学内においてその効果が実証されたことで、引き続きカウンセラー・アドバイザーが配置される方向である。今後ともキャリア支援の軸として活用していく。

2. 今後の計画

今回のキャリア支援を中心としたシステムを学生生活支援全般へと展開する。引き続きモバイルサイトの機能強化を図り、教学系情報(Web履修システムなど)を加えた学生ポータル構築を計画している。本プログラムを引き続き活用し、学業と就職活動の両立を果たすキャリア支援を展開しながら、高い就職率を維持する。

就職未内定者への支援策

1. 内定(内々定)のピークを過ぎても内定(内々定)を得られない者への支援策

モバイルサイト並びにメール配信システムによる求人情報提供をはじめ、本学進路指導課における相談・助言、履歴書・エントリーシートの添削、面接指導、キャリアカウンセリングを行い、内定へと導いた。さらに新卒応援ハローワークとの連携により、学外における求人斡旋、内定者支援も可能にした。

2. 未内定のまま卒業した者への支援策

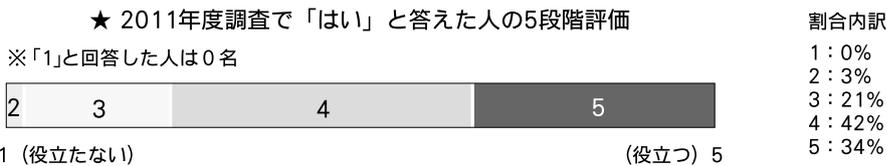
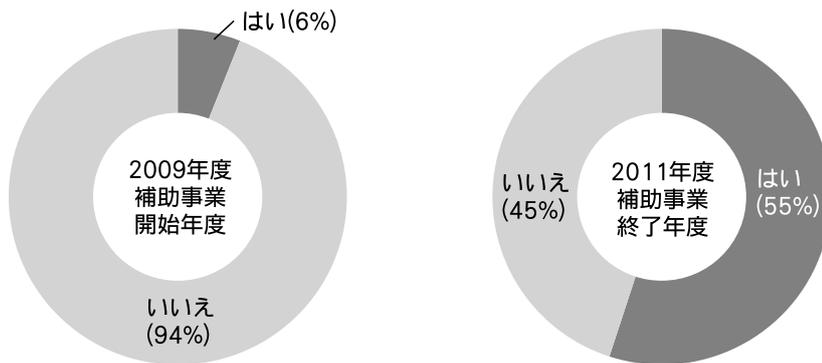
在学生と同様の内定者支援を展開した。独自の既卒者対象求人提供をメール等の活用により迅速に行った。本学進路指導課における相談・助言、履歴書・エントリーシートの添削、面接指導、キャリアカウンセリングを行い内定へと導いた。さらに、新卒応援ハローワークとの連携により学外における求人斡旋、内定者支援を可能にしたほか、本学教員の学外ネットワークを活用した進路支援も行った。

資 料

1. 進路指導課パソコンサイト閲覧状況について

- * 補助事業開始当初と比較して認知度ならびに利用状況が改善しています。
- * 満足度評価は5点満点で平均4.1点。
「はい」と答えた学生のうち約8割が4点以上の評価を付けました。

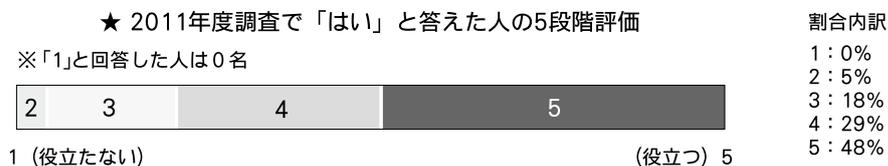
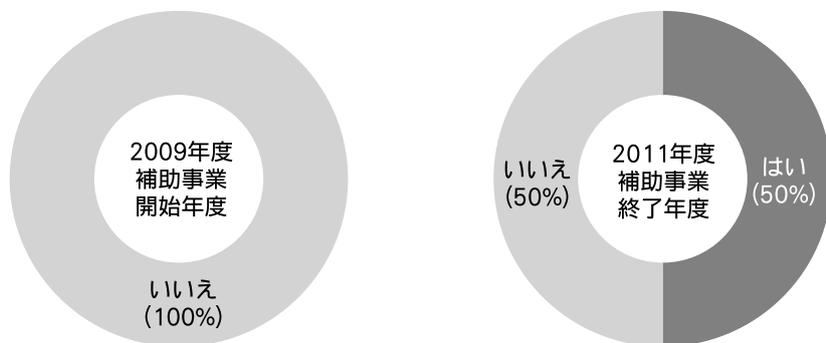
パソコンで進路指導課の情報を見たことがありますか？



2. 進路指導課携帯サイト閲覧状況について

- * 補助事業開始当初と比較して認知度ならびに利用状況が改善しています。
- * 満足度評価は5点満点で平均4.2点。
「はい」と答えた学生のうち約8割が4点以上の評価を付けました。

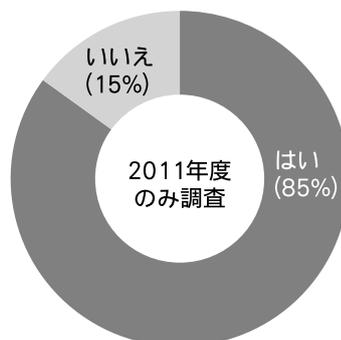
携帯サイトで進路指導課の情報を見たことがありますか？



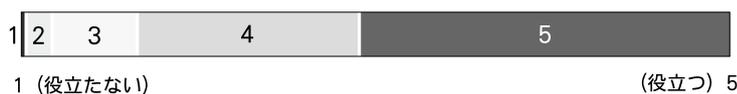
3. 学校からのメール配信について

* 満足度評価は5点満点で平均4.3点。
「はい」と答えた学生のうち8割以上が4以上の評価を付けました。

学校から情報メールの配信を受けましたことがありますか？



★ 2011年度調査で「はい」と答えた人の5段階評価



割合内訳

1：1%
2：4%
3：12%
4：31%
5：52%

4. 進路ガイダンスについて

* 満足度評価は5点満点で平均4.2点。
回答者の8割以上が4以上の評価を付けました。

進路ガイダンスは役に立ちましたか？



1 (役立たない)

(役立つ) 5

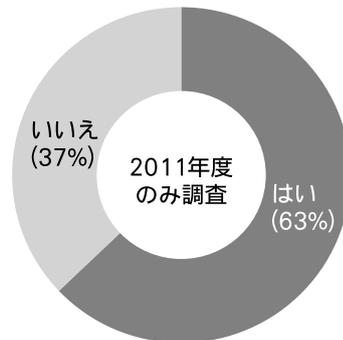
割合内訳

1：1% 2：1% 3：17% 4：42% 5：39%

5. キャリアカウンセリングと面接指導について

* 満足度評価は5点満点で平均4.8点。
「はい」と答えた学生のうち殆どが4点以上の評価を付けました。

キャリアカウンセリングや面接個別指導などを受けたことがありますか？



★ 2011年度調査で「はい」と答えた人の5段階評価

※「1・2」と回答した人は0名



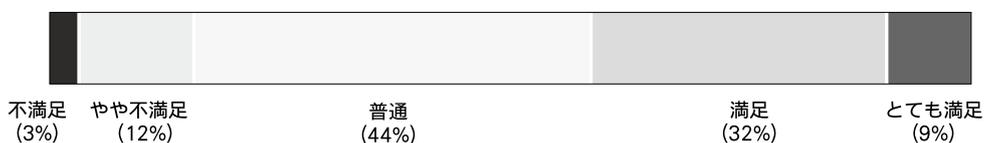
割合内訳

1：0%
2：0%
3：4%
4：12%
5：84%

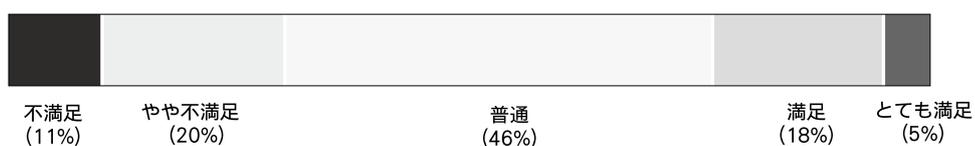
6. 進路指導に対する満足度

意義ある学生生活をつくるためのアンケートより「進路指導の満足度について」

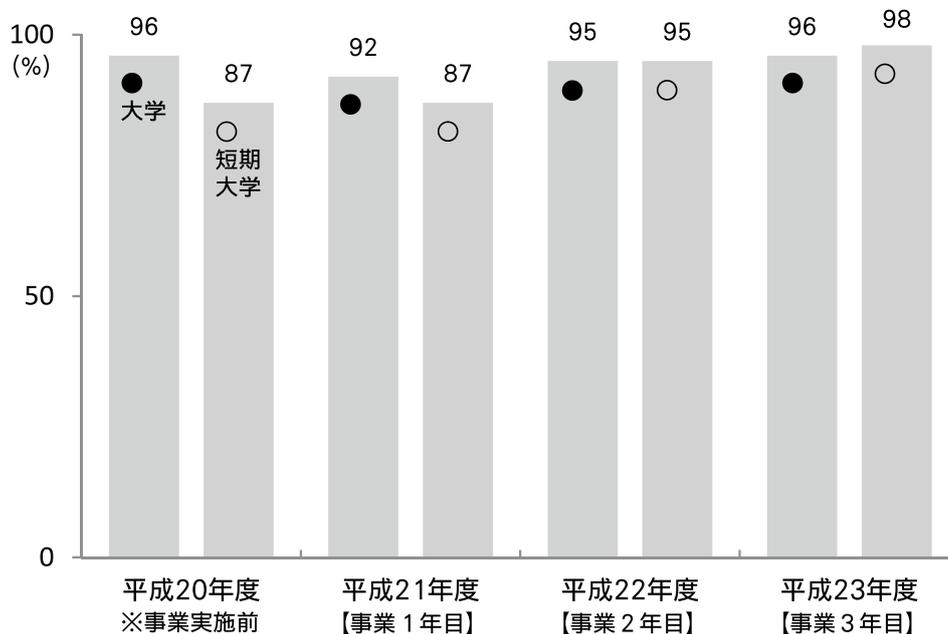
☆ 平成23年度（今回）調査時



★ 平成20年度（前回）調査時

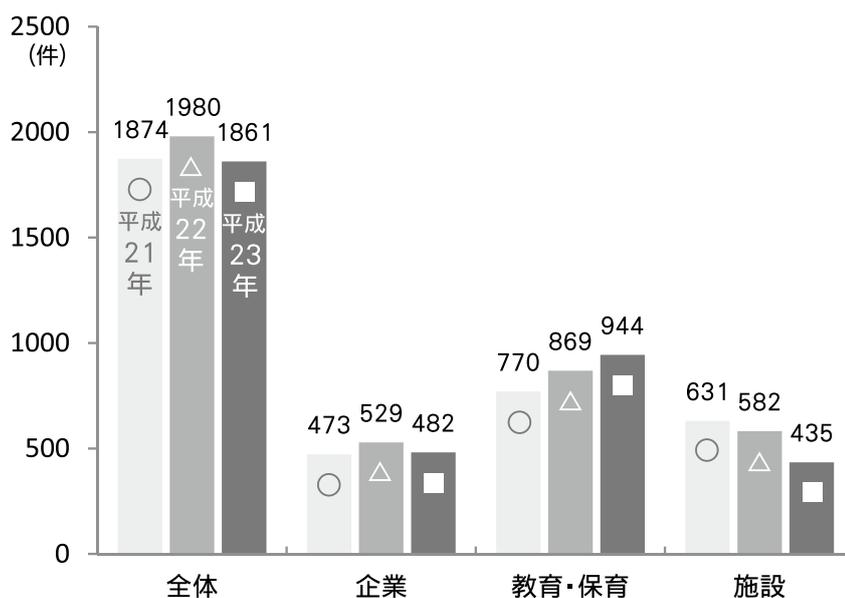


7. 本学の就職内定状況比較 (平成20年度～平成23年度) ※各年度3月中旬



8. 求人件数の推移 (平成21年度～平成23年度)

※各年度インターネット経由・公務関係の求人を除く。
※施設求人への減少は平成26年3月まで家族・地域支援学科の卒業生(介護福祉士取得者)がないためです。



評価結果

評定：S

評定理由 (総論)

携帯サイトによる学生・大学の双方向コミュニケーション化による支援体制が確立された、優れた

取組である。目標達成は半分ほどであるが、当初目標自体の高さもあり、全体を通じて概ね達成していると考えられる。就職率の大幅向上も含めて、学生満足度も高いことがわかり、優れた成果を上げている。

実地視察報告

視察日：2012(平成24)年11月16日 (木)



総評

独自の Web システムの導入により、学生と進路指導課との接触機会と対面指導のチャンネルが太く、時間的に短く、かつ迅速に機能するようになっている。折しもスマートフォンの普及とタイミングが合って、効果が増大した。

進路指導の方針は、基本は対面指導であって、Web システムはその一次接触の手段、という隠れた方針を持ち、運用に特異な工夫がされている。進路指導にあたる職員と IT 化を推進する職員がそれぞれに情熱のかつ精力的に活動し、組織構築ばかりでなく、運営ノウハウも含めて高い能力をもって活動している。その結果、学生及び大学側の双方から高い満足度を得ている。求人側からは、ターンアラウンド時間の短い就職斡旋ができる、という理由で求人件数が大幅に上がった。

上げている。学生は学外からアクセスが可能であり、学内では高スピード、接続待ちの確率が低い、ストレスのないアクセスが可能である。学生が進路指導課に相談に行こうか、という気を起こさせる手段となっている。その結果、進路指導課への相談目的訪問件数が大幅に増加している。

Web サイトには求人票の記載事項のうち、すべてを引用するのではなく、最後は相談に来ないとならないような工夫がされており、「対面指導が原則」、という方針を貫いている。進路指導課職員の熱意の表れである。

幼児教育は講義と実習が多く、学生は進路指導課を訪れて求人票を見る機会も無い場合があるが、この Web サイトの開設により、実習先の帰途、あるいは自宅でも最新の情報を得ることができる。

幼児教育という特殊業界では、一般企業が利用するリクナビなどの商用 Web サイトが役に立たない、という状況を補っている。求人側もこのシステムの存在を知り、求人件数が大幅に増加している。

この Web サイトの効用もさることながら、キャリア支援が効果を上げているのは、単純に Web サイトを導入しただけではなく、進路指導にあたる職員の指導能力が優れ、高い判断力と事務的運営能力が基本にある、と感じられた。

個別事項

本プロジェクトの範囲からは外れるが、後継の文科省補助金により学内にファイアウォール付きスイッチと40カ所のWiFiアクセスポイントを設置し、本プロジェクトで設置したWebサイトシステムと協調して効果を